

地域支援事業と言語聴覚士の活用例

地域ケア会議

自立支援を実践できるよう、言語聴覚士の専門性を活かして、生活課題の解決に向けた助言や提案を行います。

通いの場

住民の意欲や関心を高めるよう、聴覚や口腔・嚥下機能、認知機能など心身機能の加齢に伴う変化と対処方法について講話や指導を行います。

専門職に向けて

難聴や失語症などコミュニケーション障害や摂食嚥下障害のある人、認知症の人への具体的な支援方法の助言や提案を行います。

通所型介護 予防事業

集団の場を活かしながら、聴覚、言語、認知機能を含めたコミュニケーション能力や口腔・嚥下機能の評価方法や向上プログラムの立案、目標の設定、関わり方について助言や提案を行います。

訪問型介護 予防事業

生活環境に配慮し、自宅のできる自主プログラムの導入や環境整備など生活課題の解決に向けた助言や指導を行います。

認知症施策

認知症の人のコミュニケーションや社会参加、食べることに関わりながら、住み慣れた地域で暮らし続けられるよう支援します。

地域とともに

一言語聴覚士にできること



協会ホームページ

地域包括
ケアシステムの取組





コミュニケーションと食の支援を通して、その人らしい暮らしをサポートします

言語聴覚士の紹介

言語聴覚士は、専門的サービス（検査、評価、訓練、指導、助言、その他の支援）を提供することで、ことばによるコミュニケーションや食べることに困難のある人やその家族が、望む環境で親しい人たちとともにその人らしい生活を送れるよう支援します。

私たちは医療、介護、福祉、保健、教育の場で、関連職種と相互に連携し、よりよい支援を実践します。地域包括ケアチームの一員として、誰もが暮らしやすい地域を目指します。



発声・発音練習
声量を高め、明瞭な発音を促します。



聴力検査
さまざまな音のきこえを評価します。



口腔機能向上練習
口唇や舌などの可動性を高めます。

地域共生社会への思い

子どもも大人も高齢者も、すべての人が互いにつながり、交流を持ちながら、食べることを楽しみ、健康で豊かな生活を送れるよう「共に生きる社会」を目指して、地域の中で活動していきます。

言語聴覚士が行う介護予防の取組

住み慣れた地域で、自分らしく、いきいきと、健康な生活が続けることが「介護予防」の第一歩です。

「コミュニケーション」は人と人との交流をはかるだけでなく、
こころを元気にし、健康を保つことにつながります。

「食べること」は身体を丈夫に保ち、活動のエネルギーを生み出すことで、
健やかな暮らしの基礎をつくります。

年齢とともに変化する、聴覚機能や口腔・嚥下機能、認知機能をできるだけ保ちながら、
「コミュニケーション」や「食べる」活動を通して介護予防を推進します。

◆言語聴覚士は地域のさまざまな場所で活動しています

住民主体の通いの場やサロン、介護予防事業、地域ケア会議、失語症者向け意思疎通支援者の養成・派遣事業、失語症友の会などの当事者の会、市民講座、相談会、専門職等の勉強会

